

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第13回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：大学院医学系研究科・医学部、および、医学を志す教養学部生・高校生や社会において、
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2025年6月13日（金） 16:50～18:00 （第一部：現地+オンラインのハイブリッド形式）
18:00～19:00 （第二部：現地のみ）
3. 会場：東京大学医・総合中央館（図書館）333会議室およびオンライン（Zoom）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）
※ 他機関からの参加可。
5. 申込方法：事前申込制。
現地参加定員 110名
オンライン参加定員 先着500名まで登録可。

6. 内容：

司会・進行：細谷紀子、本田郁子

<第一部>

16:50 開会挨拶

（南學正臣 医学系研究科長・医学部長、田中栄 医学部附属病院長）

16:55 講演

木戸 道子 先生（日本赤十字社医療センター 副院長・第一産婦人科部長）

ピンチをチャンスに変える 一ワークもライフも楽しんで

17:40 質疑応答・全体討論

17:58 第一部縮めの挨拶 吉川 雅英 男女共同参画委員会委員長

<第二部>

18:00～19:00（現地のみ） 自由歓談・情報交換

7. 企画・運営：

東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会

第13回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会

（幹事）細谷紀子・本田郁子

（委員）雨宮史織・入山高行・菅谷佑菊・田村純人・春名めぐみ

M4：松岡康平・南佳里

M3：神作優尊・水田真美

M2：岩崎野笑・大石紘也・鈴木慎、

M1：相原瑞貴・牛田蓮・大澤壮来

C2：金知友・小峰千明

II. 開催報告

1. 参加申込者数と属性

【全体】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
招待講師)木戸道子先生	1	0	1	0.7
東大)教員	11	9	20	14.7
東大)ポスドク・病院診療医	2	0	2	1.5
東大)大学院生	10	8	18	13.2
東大)研修医	1	2	3	2.2
東大)学部学生(医学部医学科)	26	5	31	22.8
東大)学部学生(教養学部1,2年)	8	8	16	11.8
東大)その他(技術職員・事務など)	3	4	5	3.7
学外)高校生・中学生	9	19	28	20.6
学外)その他	2	8	10	7.4
合計	73	63	136	100

【高校生(+中学生)の所属の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
日比谷(東京都)	4	4	8	28.6
豊島岡女子(東京都)	2	3	5	17.9
都立武蔵(東京都)	1	2	3	10.7
渋谷教育学園渋谷(東京都)	1	1	2	7.1
東京学芸大附属(東京都)	1	0	1	3.6
桜蔭(東京都)	0	1	1	3.6
戸山(東京都)	0	1	1	3.6
開明(東京都)	0	1	1	3.6
浦和一女(埼玉県)	0	1	1	3.6
豊田西(愛知県)	0	1	1	3.6
関西大倉(大阪府)	0	1	1	3.6
その他	0	3	3	10.7
合計	9	19	28	100

<性別の内訳>

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
男性	28	20	48	35.3
女性	45	42	87	64.0
回答しない	0	1	1	0.7
計	73	62	136	100

【学外(他大学・他機関、他)高校生以外の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
他大学・他機関	2	5	7	70
会社員	0	1	1	10
その他	0	2	2	20
計	2	8	10	100

2. 当日参加者数

現地参加者 59名(会場受付で確認)

オンライン参加者 24名(Zoomの接続記録より)

計 83名

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月に開催されてきた。第13回目を迎える今回も前回同様に現地・オンライン（Zoom）のハイブリッドで開催した。当日は、学内外から59名の現地参加、24名のオンライン参加があり、そのうち約2割を高校生が占めた。講師として、日本赤十字医療センター副院長・第一産婦人科部長の木戸道子先生をお招きし、若手の医師・研究者・学生・高校生のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、ライフイベントを経験しながら前向きに臨床・研究を展開する生き方への理解を深めることを目指した。

開会にあたり、南學正臣医学系研究科長・医学部長と田中栄医学部附属病院長より挨拶をいただいた。南學研究科長・学部長は、初めに交流会への参加の感謝を述べられた。南學先生と同級生である講師の木戸先生が、当時は学年で女子が3人という現在とは全く異なる厳しい状況の中、どのようにキャリアを歩み、楽しく過ごされてきたかについてお話されるのを楽しみにしており、そのような話は女性のためだけでなく男性にとっても役に立つお話になるだろう、と述べられた。田中病院長は、WIRED誌編集長のケビン・ケリーが提唱した「プロトピア」という言葉を挙げ、昨今は国内外での政策の不安や戦争など悲観的な状況にあるが、若い人たちには「プロトピア」を目指し、一歩ずつでも昨日よりよい明日を創って欲しいと述べられた。

続いて、講師の木戸道子先生により「ピンチをチャンスに変える ～ワークもライフも楽しんで～」というタイトルで講演が行われた。木戸先生はご自身のキャリアと人生を振り返りながら、特に若い世代に向けて「楽しくアクティブに生きること」の重要性を訴え、ワークライフバランスをいかに実現し、困難を乗り越えてきたかについて具体的に語られた。木戸先生の出生当時は半数が自宅出産で、先生自身も自宅で出生されたという。中学校での「良妻賢母教育」に違和感を覚え、自分自身の人生を実現したいと願うようになった。高校時代、虫垂炎での入院中に隣のベッドの患者の死を経験したことが、医療の仕事を決すきっかけとなった。医学部入試面接で「女性は結婚して子供が生まれたらどうせやめちゃうんでしょ」と言われた経験は「今後どんなにつらいことがあっても辞めるものか」と思う原点となったという。東京大学理科三類に進学したが、同学年の女子はたった3人だった。学生時代に婦人科で境界悪性腫瘍の手術を受けたことは大きなピンチであった。しかし、それが産婦人科へのキャリアを決めるきっかけとなり、がん発症のメカニズムを知りたい、健康知識を普及したいと願い、卒後は東大分院産婦人科に入局した。当時、女性の医師は少なく、手術に入る時の更衣室に「女性医師」用の部屋はなく、医師と思われずにコメディカルや他の職種と間違えられることも多々あり、ジェンダーの壁を感じたという。

その後、長野赤十字病院に移り、頼れるボスとの出会いや、生命を直接扱うことの重みや赤十字の精神の学び、将来の夫との出会いがあった。また、女性医師として患者から頼られやりがいを感じる一方で、寝る間もない働き方への問題意識も芽生えたという。その後、恩師の勧めもあり、東大医科研の大学院生となり卵巣腫瘍の遺伝子異常に関する基礎研究を行った。その間、2人の息子を出産し子育てに奮闘しながら学位を取得された。分院の助手、そして、本院の助手を経て、三男出産の育児休暇直後に、分娩数が都内最少の施設から都内最大の周産期センターである日本赤十字社医療センターへ異動したことは最大のピンチであった。そこでも木戸先生は、ベビーシッターを活用したり、夫のサポートや子供の協力などを得たりしながら、「負けるものか」と月8回の当直などの激務を乗り越えた。木戸先生は、子供がいるから仕事を減らしてもらいより、むしろ忙しい職場であるほど早く勘を戻せるとポジティブに考えることが大切だと述べられた。また、育児を一人で抱えこまないこと、当事者が声をあげることも必要であると訴えられた。当時の体験について、木戸先生は、学会でのパネリストや、女性医師支援のホームページの立ち上げ、東大女子卒業生の会「さつき会」での活

動、著書「ワーキングマザーのすすめ」の執筆などを通して表現されてきたそうだ。

木戸先生は、産婦人科医としての生活は、やりがいと責任に満ちていると語った。また、臨床医としてだけでなく、多様な活動を通してキャリアを広げてきた。日本産婦人科医会、厚生労働省、日本医師会などの委員会の委員として活動し、「現場から声を上げ、提言していく」ことで、医師の働き方改善に向けて指導的な役割を担ってきた。木戸先生は、特に女性は自己肯定感が低い傾向にあると指摘し、「私なんて」とか「出しゃばりと思われたくない」という考えに囚われず、自分の能力を最大限に開発していくことの重要性を強調した。管理職は大変な面もあるが、裁量が広がり、世界が広がり、楽しいことも増えるとして、積極的に挑戦することを勧めた。最後に、「若い皆さんに『できそう』ではなく『やりたい』ものを選んでほしい。さまざまな人との出会いを大切に、信念・ライフワークをもって、どんな時も歩みを止めず、前向きに取り組めば、豊かな人生になる。」というメッセージを述べて結ばれた。

質疑応答の時間には、育児と仕事のはざまで迷うことはなかったか、子供には自分の仕事についてどのように伝えているか、時代の変遷に合わせ前向きな気持ちで医者になりたい、などの質問やコメントが挙げられた。それらに対し、木戸先生から丁寧な回答や意見が述べられた。

第一部の中締め挨拶として、吉川雅英男女共同参画委員会委員長より、木戸先生への謝辞が述べられた。18時より第2部として、現地参加者のみによる自由歓談の時間が設けられ、高校生や医学部学生を中心に約30名が残って引き続き参加した。質問は途切れることなく続き、19時まで会は続いた。高校生や大学生が講師や教員を積極的に囲んで対話をし、とても充実した「交流」の時間を持つことができた。

III. 参加者アンケートの集計結果

当日参加者数：83人（現地参加者59名、オンライン参加者24名（受付・接続記録より）

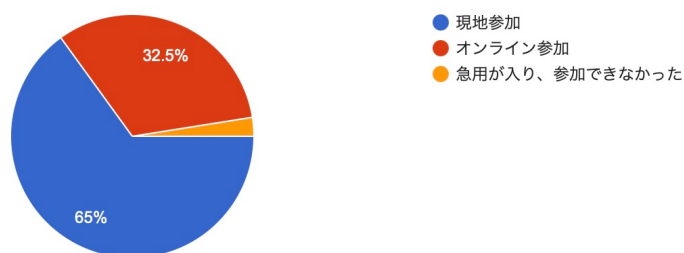
アンケート回答者数：40件（回収率48.2%）

アンケート実施方法：参加登録者全員にGoogleフォーム経由の回答を依頼

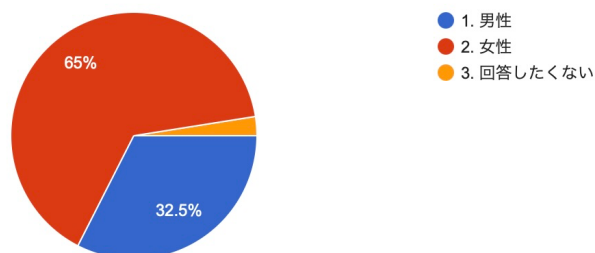
アンケート実施期間：2025年6月13日（金）（会の終了後）～6月20日（金）

<基本情報>

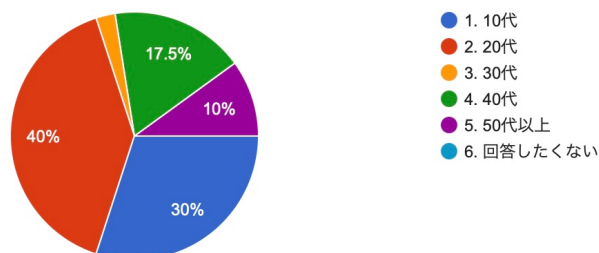
A0) 今回の「第13回医学系キャリア支援のための交流会」はハイブリッド形式で開催しました。参加いただけましたか？参加した場合、どちらの方法で参加されましたか？



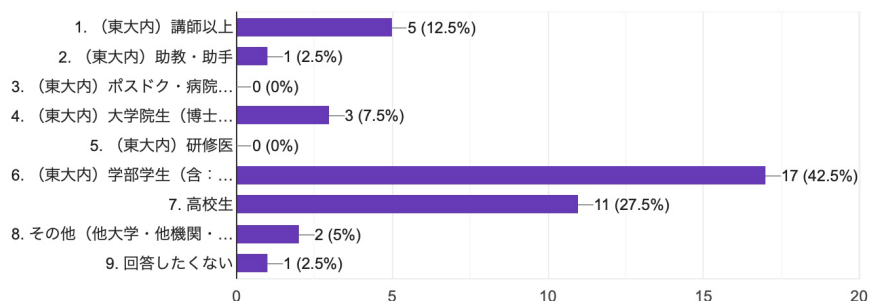
A1) 性別



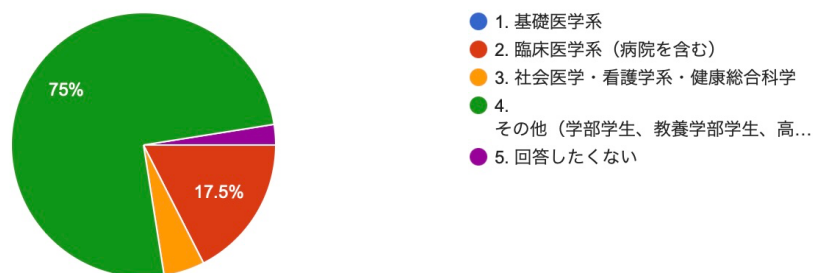
A2) 年齢



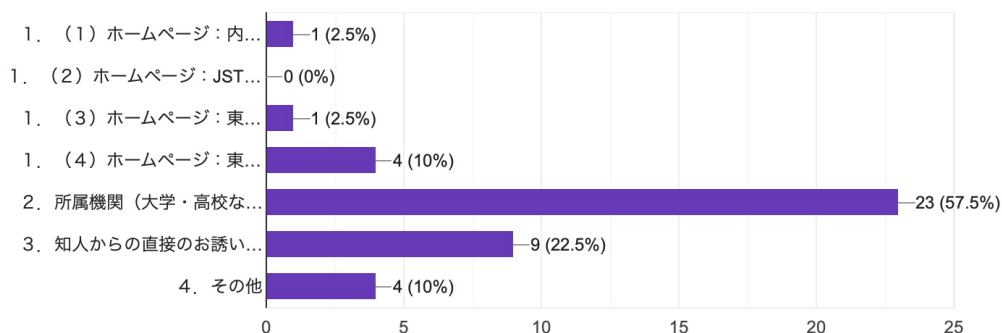
A3) 職種・職位（特任・客員を含む）



A4) 所属分野

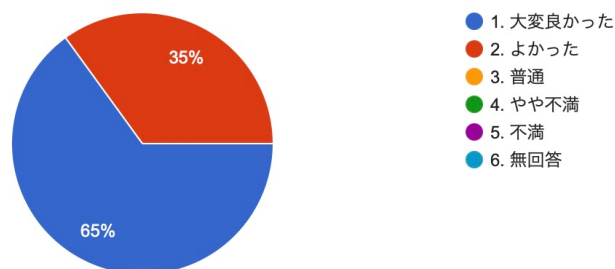


A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)



<今回の企画について>

B1) 講演 木戸道子先生 ”ピンチをチャンスに変えるーワークもライフも楽しんでー” について



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想 (自由回答)

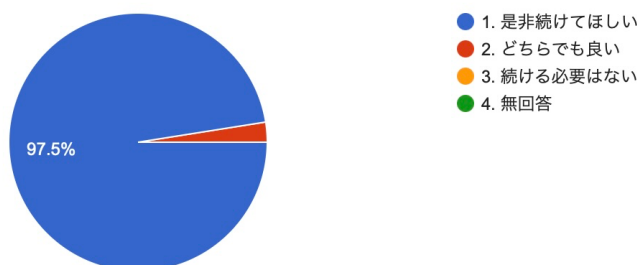
- ・木戸先生のご講演では、先生の個人史から多くのことを学ぶことができました。ふとした場面で生じた違和感や、そこから発展した問題意識を大切にして、社会に対して積極的に呼びかけ、より良い社会を志向し続けることが人生の指針となりうることを教えていただきました。また、男女共同参画社会や医師の働き方をめぐる諸問題についても窺い知ることができ、一人ひとりの人生は社会の中で制約を受けながらも社会を作り変えていく力もあることを改めて教えられた気がします。
- ・木戸先生の「下は見ずに前を向いて」生きていく、パワフルな生き方を見習っていきたいと思いました。

- ・同学年に3人しか女性がいなかった世代でいらしたという木戸先生のお話の中で、「家庭や仕事、子供など抱えるものが増えていく中で、それでもモチベーションを高く持ち、上を見てキャリアを継続すべし」という点と、「理解あるパートナーは重要である」という点が印象に残りました。前者に関して、今後の人生の中で様々な変化があるかと思いますが、その時こそ「ピンチはチャンス」とのお言葉の通り、前向きに捉えていきたいと感じました。また、日頃よりお世話になっている複数の先生方とも交流会にて交流を持つことができ、大変よい機会となりました。なかなかこうした機会に巡り合うのは難しいものだと思いますが、今回の交流会に関して日々お世話になっております細谷先生からご連絡を頂戴しまして開催を知り参加することができました。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。引き続きどうぞよろしくお願いたします。
- ・先生がどのような選択をして現在に至ったか、分かりやすく感じることができました。
- ・木戸先生のパワフルな人生経験をお聞きすることができ、大変勇気を頂けました。
- ・非常に勉強になり、エネルギーをいただきました。
- ・とても励みになりました
- ・演者の先生だけでなく、交流会の中で、日頃懂れている学内の先生の話も伺うことができ、大変有益でした。高校生たちともたくさんお話ができて、自分が医師になりたいと思った時のことや初心を思い出す機会にもなりました。
- ・専門的なお話だけではなく、高校生、特に女子生徒がキャリア形成を考えていく上で、大変貴重な内容であったと思います。また、ピンチをチャンスに変えるというお話が生徒たちに勇気を与えてくださったと確信します。こういった企画は、高校生たちにとって「本物」を感じることができる機会であり、憧れを自身の進路へと結びつけていくことのできるかけがえのない機会となるものと思います。
- ・現代よりもずっとジェンダー格差があった時期に、それに屈する事なく一生懸命働いてきた先生のお話は私たち学生の勉強にも通じる場所がありました。「悔しい気持ちをバネに目標を高く設定」すること、「不本意にペースダウンしないためにできることを模索」すること、『『できそう』ではなく『やりたい』ものをやる』ことが大事なのだと思心に留めておきます。先生方が壁を壊して未来の世代に道を開いてくださってきたことをいつか私も次の世代の為繋いでいける人になりたいと強く思いました。
- ・医師という仕事に憧れる一方で、結婚している女性医師が少なかったり当直があつてしんどいなどと聞いたことがありました。結婚したくて睡眠時間もしっかり取りたいと思っている自分には医師は向いていないかもしれないと思って医学部受験を諦めようとしていましたが、本日の講演を聞いて、医学部に入ってやりたいことに挑戦したいと思うようになりました。ありがとうございました。
- ・実際に働きながら子育てをされたお医者さんのお話を聞く機会をいただけたことで、改めて自分の進路について考えることができ、良かったです。ありがとうございました。
- ・医学部進学に対してもっと前向きに考えること、そして人生の中の小さな楽しみを見つけることを学びました。
- ・ご自身の経験を共有していただいて、大変参考になりました。時間の都合で仕方ないですが、後半の対応部分のご講演時間が足りなかったようで残念で、もう少しゆっくりお聞きしたかったです。
- ・医師の道を選ぶ上でいわゆるワークとライフの両立は一つ考えるべき点だと思うが、自分のワ

ークとライフのバランスを考える上で非常に参考になりました。貴重な機会をありがとうございました。

- ・子どもを任せて、キャリアを優先するような働き方がこれからもよいのか。 今後は、子どものことに時間を割きながらもキャリアアップできるような環境が必要とおもう。講演された先生のような働き方を推奨するのは、どうかと思う。
- ・現役の女性医師の歩みを知ることができたのは勉強になりました。先駆者ゆえの苦勞（女性の採用少ない、保育サービス少ない、育休後の職場が確約されていない等）は、時代とともに改善されている部分があると思います。その為、また別の問題（サービスがある→昔より選択肢があるから、できて当たり前）もありそうなので、先駆者の少し後の世代の具体的な話も聞いてみたかったです。
- ・貴重な話が聞けたのと同時に交流会が情報交換の場となっていて良かった。
- ・普段なかなかお目にかかれないOBやOGと出会え、その人生談やアドバイスを伺える良い機会だと思いました。
- ・第二部の懇親会では、多方面でご活躍されている先生方や学年の近い先輩方から様々なお話を伺うことができました。医学・医療の世界にも多様な働き方や分野があり、自分自身の関心や適性を見定めるには、今回のように多くの先生方や先輩方から直接お話を聞くのが一番だと思います。医学生としては孤立した環境に置かれた駒場生にとって、今回のような交流の機会は大変貴重です。
- ・高齢再受験で入学した私自身もそうですが、女性の学生の参加者が多かったことから、マイノリティであることからキャリアに関して切実な不安を抱えている人は多いのだと思います。講演会の企画・準備等が大変かと思いますが、これからもこのような機会をご用意いただけると心強いです。
- ・演者や教員の話聞いて、また話し合えて良かった。
- ・素晴らしい先生方から貴重な話をたくさん聞いてよかったです。
- ・医学部の学生や先生方とお話する機会があり、貴重な学びを得ることができました。
- ・学生の参加が多いのが分かって良かった。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会について：

- ・毎年このような素敵な会を開いてくださり本当にありがとうございます。

- ・素晴らしい機会を与えていただきありがとうございます。
- ・現役且つ最前線で活躍されている先生のお話を直接伺う貴重な機会で一言一句に大変重みがありました。また、交流会では学生の方々に受験のアドバイスも頂き有意義な時間となりました。私はまだ高校生で医療の現場に立つ資格すら得ていませんが、将来その日が来た時に今回の日の事が必ずや自分の働き方の指針の一つとなると確信しています。来年も機会がありましたら是非、(現地)参加がしたいです。細谷先生を始め委員の先生方、この度は本当にありがとうございました。

今後の交流会に関するご要望：

- ・海外医師免許の取得などの交流やセミナーがあると嬉しいです。
- ・色々な分野の先生に相談出来る会があれば嬉しいです。
- ・長年企画・運営をされてきたご苦労は並大抵のものではないと思いますが、これからも私たち後輩のためにぜひ開催をよろしく願いいたします。3年前のように、たまには男性の先生を演者にしていただき、幅広い目線からのお話を伺えると良いと思います。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。
本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思っております。
今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会